ちょっと読んでみませんか（令和二年お盆）

第54話『新しい《供養》様式』

～本源寺副住職　本間健司

このプリントを書いている7月中旬にあっても、新型コロナウイルスの感染は終息に向かうどころか、再び広がりつつある状況です。

「ウイズ・コロナ」（コロナウイルスと共にある**新しい生活様式**）という造語も出来たように、私たちは当分の間、いやもしかしたら数年間、新型コロナウイルス感染を常に意識した生活になるかも知れません。

感染予防の習慣がもはや“常識”となりつつあるなか、お寺としても感染予防対策について考え、話し合い、出来ることから実践してきました。

皆さんのなかには、コロナ禍が始まってから葬儀や法事等を経験された方も少なからずいらっしゃると思いますが、きっと不安や迷いを感じられたこともあったのではないかと思います。

そこで今回のプリントにおいては、前回も使いました『Q＆A』（質問と答え）の方式で**「新しい生活様式」の供養方法**について一例を示しながら、皆さんと考えてみたいと思います。

Q、お寺で実践している感染予防対策について具体的に教えてください。

A、室内では、全ての方に「マスク着用」・「手指の消毒」をお願いしております。玄関・本堂内・トイレにはアルコール消毒剤を常設し、玄関にはマスクの予備を用意しておりますので、お忘れの方はご利用をお願いします。

また本堂内は、換気扇や窓の開放による「常時換気」、椅子の「間隔を広く」取るなど、“三密”の回避を心掛けております。そして、現段階においては、お茶菓子の提供をさせて頂く場合、ペットボトルのお茶と持ち帰り用のお菓子の形にさせて頂いております。

色々とお気遣いになられると思いますが、どうぞお寺に御参拝頂き、供養の誠や祈りの想いを捧げて頂きたいと願っています。

Q、感染予防のため施主だけで法事を行いたいのですが、お世話になった方を招かないのは失礼に当たるでしょうか？

A、「自分は招待してくれると思っていたのに連絡も無く、残念だった」…以前そんな声を聞きました。

施主様としては本当に悩ましいところですよね。法事は、故人への供養という意味合いの他に、故人の御霊が現世に生きる私たちの縁を繋げてくれる大切な場でもあるからです。

故人と深い繋がりがあった方が、供養・感謝の想いを捧げたいと感じることは大変尊いことです。お施主様には手間が掛かるかも知れませんが、特に親しい方々だけにでも、安全を想う率直な想いを手紙や電話等でお伝えして頂ければと思います。

どうぞ、ウイルスによって大切な『人との縁』まで侵されてしまわぬよう、お寺としてお祈りするばかりです。

Q、施主や親しい親族が感染拡大地域や遠方に住んでいて、故人の命日までに法事を行うのが難しいのですが、どうすれば良いでしょうか？

A、今までは、通常「御命日までに年回忌供養をして下さいね」とお寺として説明をしてきました。もちろん、御命日はとても大切ですが、身の危険を感じてまでそれに合わせるのは本末転倒です。そこで、次の３つの方法を提示したいと思います。

①法事を延期する…故人霊位の御命日に、仏壇やご自宅で合掌・御題目をお唱えし、年回忌供養を延期する旨を霊位にお伝えして下さい。事態が収束してから、身内と打合せし、無理のない日程で行えば良いでしょう。

②住職のみで行う…参列者は無しで法要を行い、お墓に塔婆を立て御回向します。供物は業者さんに手配して頂いても良いですし、お寺で代理することも可能です。また希望があれば、法要時に使用した紙位牌(戒名紙)を郵送させて頂きます。

③近隣の方が代理で行う…参列できない施主や親族の方は、法要当日や御命日に自宅で合掌供養して下さい。法要中に、得意な方が写真を撮って、御身内にお送りするというのも良いかもしれませんね。

Q、葬儀は多くの方が集まりますが、今までのやり方で実施して大丈夫でしょうか？

A、今では、どこの葬儀会館でも世間の状況に対応した措置が取られています。一例を挙げると、①一般会葬者は着座せず焼香のみ、②一般会葬者の焼香時間をずらす、③葬儀後の会食の縮小や中止、④法要中のマスク着用呼びかけ　等々。それでも、施主の立場ともなれば〝もし感染者が出てしまったら…〟と不安に感じることがあって当然だと思います。

大切な方を亡くされた悲しみに加え、新型コロナ感染への不安まで抱えてしまっては、心も体も参ってしまいます。どうぞ御無理なさらずに、お寺や葬儀会社に何でも相談してください。お寺としては通例にとらわれずに対応させて頂く所存でございますので、

どうぞご安心ください。

今回取り上げたこと以外にも不安や疑問に感じていることが多々あるかと思います。また、供養の事だけでなく、日常生活についてのことでも、「ちょっと話を聴いてほしい…」ということがありましたら、どうぞお気軽にお話し頂ければ幸いです。

皆様方のご健康と安穏なる生活を、今後も引き続きお祈り申し上げて参ります。

合掌　南無妙法蓮華経